

や き ゆ う じ ょ う し ゅ う よ う に ん ず う や く ま ん に ん で
野球場（収容人数約 4 万 7000 人）から出る、
し あ い は い し ゅ つ り ょ う
1 試合の CO₂ 排出量は 33000kg です。

※ 2022 年 7 月末に阪神タイガースが主催した「カーボン・オフセット試合」と設定した
阪神甲子園球場での 6 試合で排出された CO₂ から、1 試合あたりの平均値

33000kg

ひ ょ う ご げ ん は ん し ん こ う し え ん き ゅ う じ ょ う し ゅ う よ う に ん ず う や く ま ん に ん や き ゆ う じ ょ う
兵庫県にある阪神甲子園球場の収容人数は約 4 万 7000 人です。野球場
し ゅ う め い
では照明やエアコンなどの設備や売店で電気やガスが大量に使われていて、
き ぼ お お
規模が大きいところでは CO₂ 排出量もそれだけ多くなります。

や き ゆ う じ ょ う
野球場をはじめ、さまざまなスタジアムでは、たい 陽 光 パ ネ ル と り つ け た り
し ゅ う せ い の う た か し ゅ う め い
り、省エネ性能の高い照明やエアコンに切りかえたりするなどの、CO₂ 排
し ゅ つ り ょ う
出量をへらすとりにくみが行われています。また、せ き ゆ
石油からつくられるプラス
せ い よ う き し ゅ う
チック製容器の使用をへらすためのとりにくみなどもすすんでいます。

CO₂ ヒント

や き ゆ う じ ょ う く ふ 野球場からの CO₂ をへらす工夫

は ん し ん こ う し え ん き ゅ う じ ょ う
阪神甲子園球場では、や ね たい 陽 光 パ ネ ル と り
りつけて、1 年間で約 150 トンの CO₂ 排出量を
ね ん か ん や く は い し ゅ つ り ょ う
へらしています*。LED 照明に変えることでも、
し ゅ う ひ で ん り ょ く
消費電力をへらしました。あ せ み ず
雨水をためてグラウンドにまいたり、トイレを流すときの水に使ったり
な が み ず つ か
するなど、せ っ す い
節水にもとりにくんでいます。

このほか、2025 年 2 月に移転する阪神タイ
ぐ ん ほ ん き ょ ち
ガースの 2 軍本拠地でも「ゼロカーボンベ
け い か く
ースボールパーク」にする計画がすすんでいます。

* COOL CHOICE「数字で見る阪神甲子園球場のエコな取組」より



ない や ぜ ん たい や ね う え たい 陽 光
内野スタンド全体をおおう屋根の上に太陽光
パネルを取りつけている

43g

太陽光発電は、太陽の光を電気エネルギーにする再生エネルギーの1つです。
燃料を使わず、運転や手入れが簡単で、発電のときに CO₂ を排出
しません。しかし、天気が悪い日や夜に、発電することができません。

太陽光発電がすぐれているのは、大規模な施設以外でも手軽に行える
点です。家や学校、お店や工場などで太陽光パネルを取りつけるところ
がふえていて、太陽光発電の利用は急速に広がっています。

いっぽう、大規模な太陽光発電については、地すべりや土砂崩れなど
の自然災害や、森林伐採、不法投棄などの人の手による環境破壊の原因
になってしまふことがあるため、地域住民に配慮することが求められ
ます。

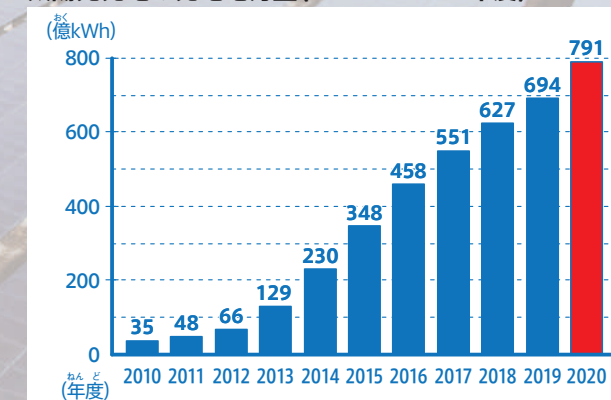
CO₂ ヒート

ふえてきている太陽光発電

日本では、太陽光発電を取り入れる会社や家庭が
たくさんふえ、発電量は年々ふえています。2020
年度の年間発電量は、791 億 kWh になりました。
これは、約 1860 万世帯分の発電量にあたります*。

*2020年度の世帯当たりの年間エネルギー消費量（電気）：4258kWh
環境省「令和2年度 家庭部門のCO₂排出実態統計調査 結果の概要（確報値）」より

太陽光発電の発電電力量（2010～2020年度）



※資源エネルギー庁「総合エネルギー統計 令和2年度（2020年度）エネルギー需給実績（確報）」
より、2010～2020年度の太陽光の発電量

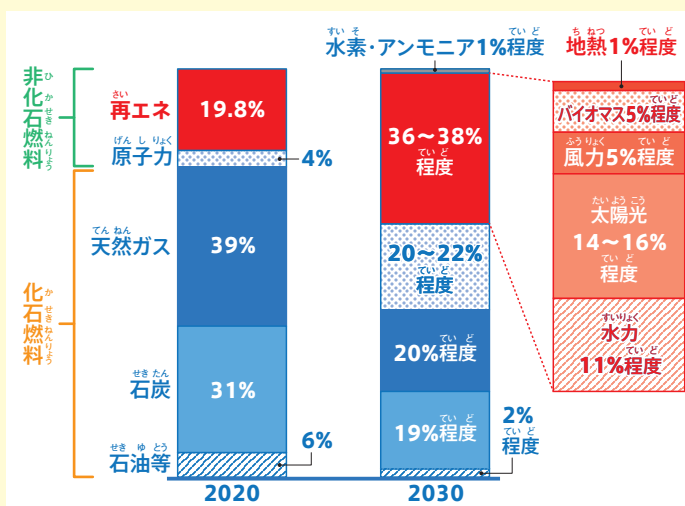
再エネはこれからどのくらいふやすの？

国全体でCO₂排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルを目指すには、再エネを中心とした発電に切りかえていく必要があります。

2021年に発表された「第6次エネルギー基本計画」において、日本政府は2030年度には全体の発電量の36～38%を再エネにする目標をかかげています。ドイツやイギリス、スペイン、イタリアではすでに40%以上を達成しています*。

*ノルウェー、アイスランド、コスタリカではすでに再エネ100%を達成している

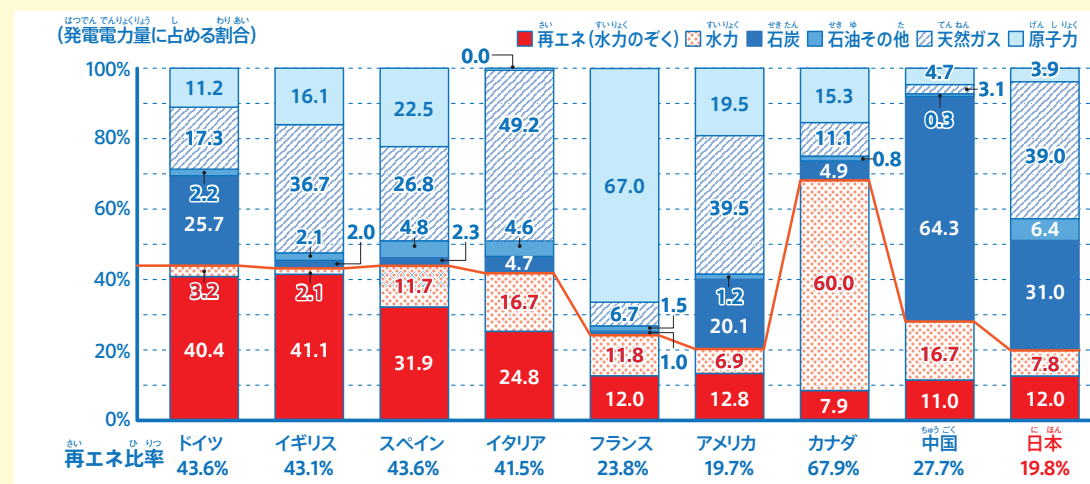
2020年度の電源構成と、2030年度に目標とする電源構成



※資源エネルギー庁「国内外の再生可能エネルギーの現状と今年度の調達価格等算定委員会の論点案」(2022)より

世界ではどのくらい再エネが広がってるの？

主要国の発電電力量に占める各発電の割合(2020)



※資源エネルギー庁「国内外の再生可能エネルギーの現状と今年度の調達価格等算定委員会の論点案」(2022)より

世界でも多くの国が2050年までにカーボンニュートラルの実現を目指しています。日本と同じように各国で、CO₂排出量をへらすもっとも重要な方法の1つとして再エネの発電を広げています。

日本のように化石燃料のエネルギー資源を輸入にたより、外国にたくさんお金をはらっている国では、国内でエネルギーをまかなうことができる再エネをふやし、エネルギー自給率を高めることがとくに重要です。

地域で協力しあって目指す脱炭素社会

2011年に起きた東日本大震災や、近年つく大型台風などによる被害をきっかけに「分散型エネルギー」が注目されています。これは、1か所に集中させた大規模な発電にたよるのではなく、各地域でつくりだした比較的小さな規模の電気を使っていくことを目指すものです。地域で使うための電気を地域でつくるので、「地産地消エネルギー」ともよべれます。

分散型エネルギーにおいても、再エネの利用が期待されています。地域でつくった太陽光発電やバイオマス発電などによってつくった電気や熱を、学校など地域の公共施設や企業、住宅へととけます。災害などの非常時に大規模な停電が起きたときにも、地域の中でエネルギーを使いつづけることができます。

多くの都道府県と市町村で2050年までにCO₂排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」をしています。自治体が中心と

なり、地域の企業や住民と協力しあってCO₂排出をへらす町のしくみをつくっていくものです。1人1人が省エネを心がけたり、ゴミをへらしたり、公共交通機関を使ったりなどの行動をつづけていくことで、お金もまわり、仕事がふえてゆたかになっていくという脱炭素を中心とする地域づくりを目指していきます。



兵庫県淡路島では、エネルギー自給率100%を目指している。使われていなかった土地で太陽光発電を行ったり、放置竹林の竹を利用してバイオマス発電にとりくんだりしている

分散型エネルギーのイメージ

